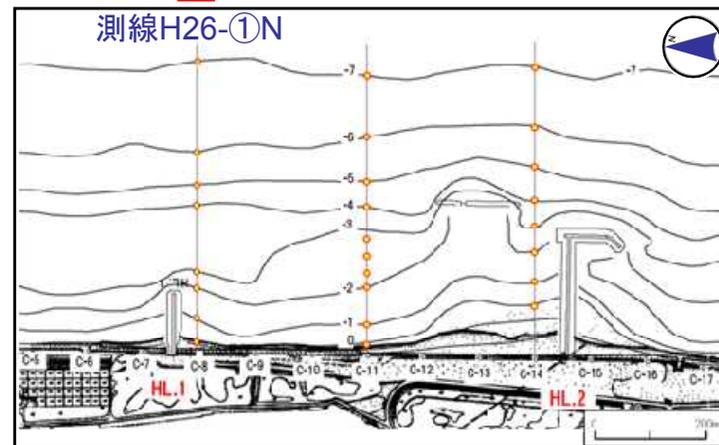
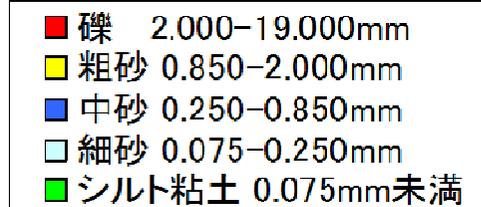
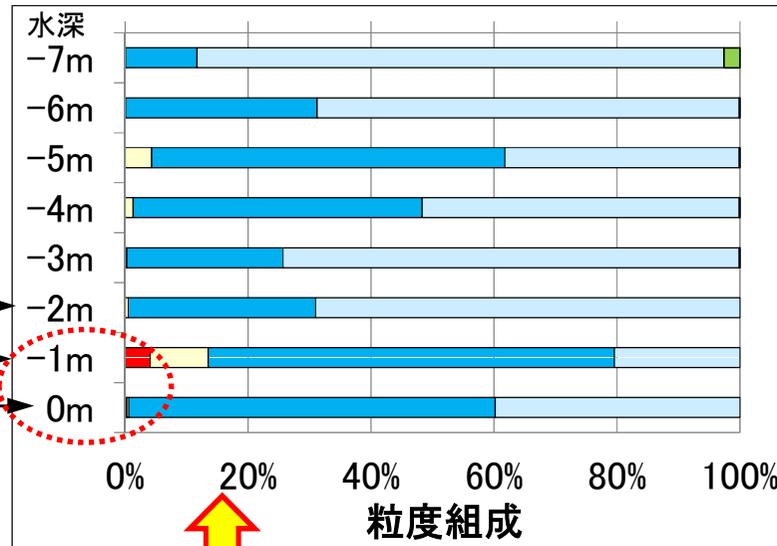
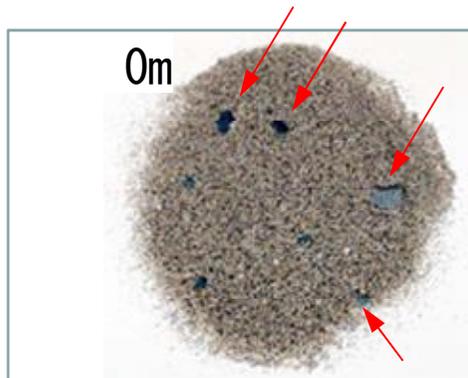
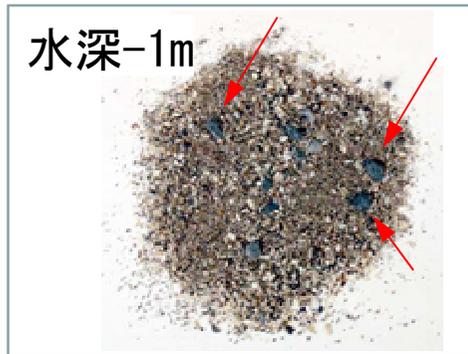
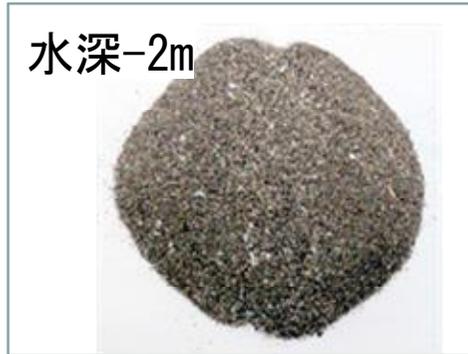


1. 底質調査 1.2 粗粒材の水深方向への移動

● 粗粒材投入後 約2週間

水深0m、水深-1.0mの試料では、投入した粗粒材(7号碎石)を確認した。(粒度組成グラフ中の■ 礫分)

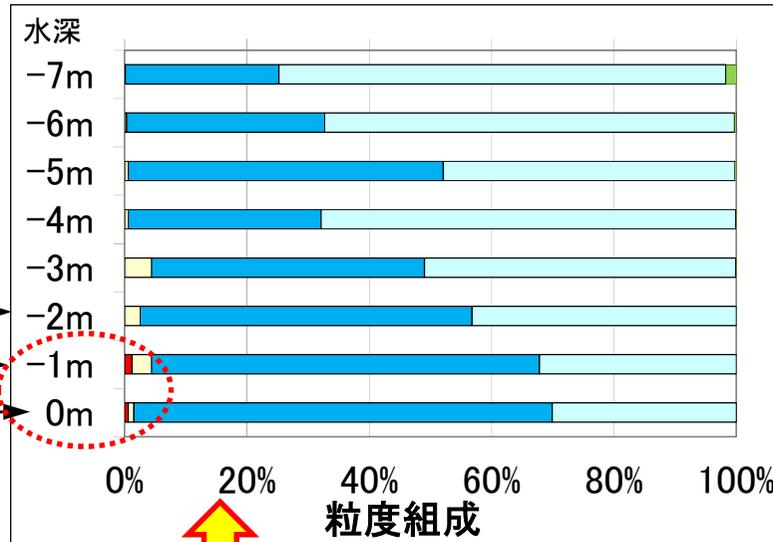
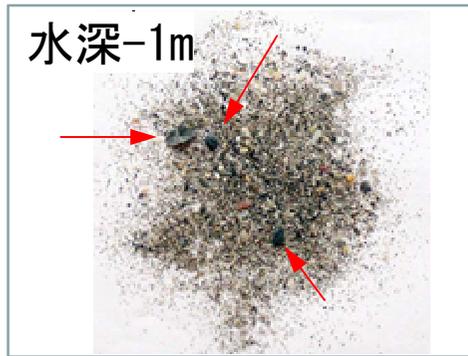
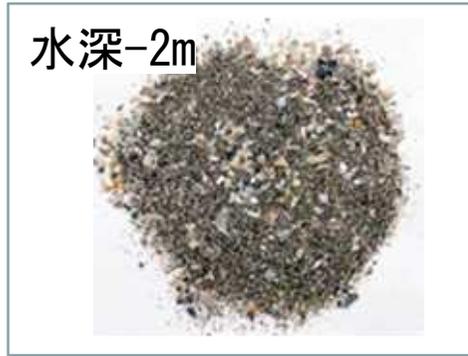
水深-2m以深では、粗粒材(礫分)は確認されなかった。



1. 底質調査 1.2 粗粒材の水深方向への移動

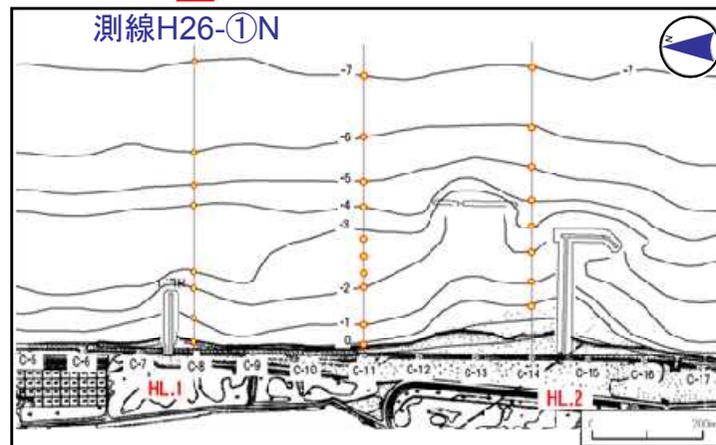
● 粗粒材投入後 約4週間

水深0m、水深-1.0mの試料では、投入した粗粒材(7号碎石)を確認した。(粒度組成グラフ中の■ 礫分)
 礫分の占める割合は、投入後約2週間に比べて減少した。



投入後約4週間においても、水深-2.0m以深では、粗粒材(礫分)は確認されなかった。
 粗粒材は、水深-2.0m以深には移動していないものと考えられた。

- 礫 2.000-19.000mm
- 粗砂 0.850-2.000mm
- 中砂 0.250-0.850mm
- 細砂 0.075-0.250mm
- シルト粘土 0.075mm未満

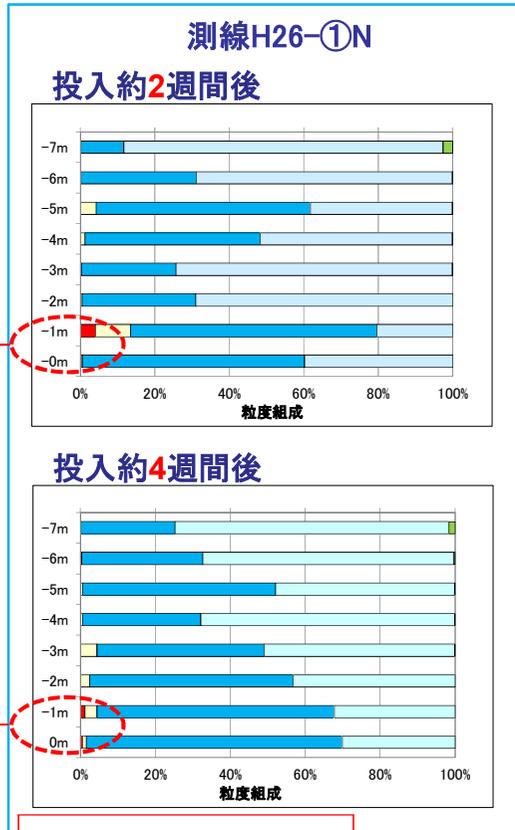


1. 底質調査

1.3 粗粒材の水平方向への移動

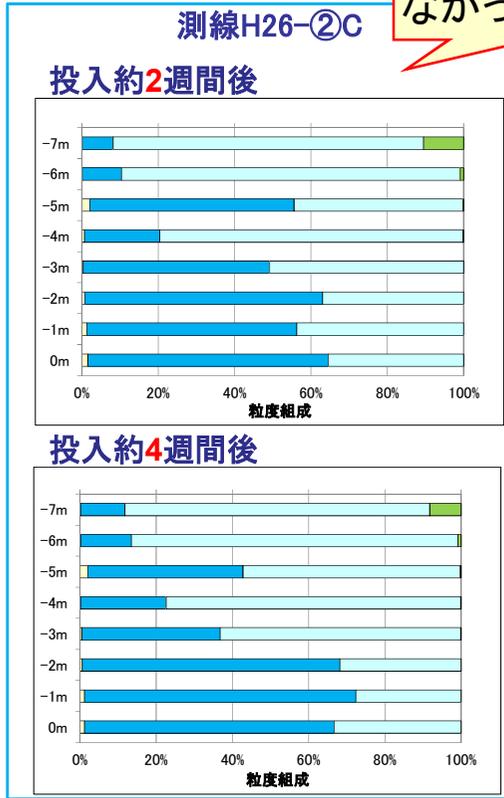
粗粒材投入後に粗粒材(礫分)が確認されたのは、投入箇所の測線H26-①Nの0mと-1.0mのみであり、その他の測線では確認されなかった。

粗粒材(礫分)が確認された場所

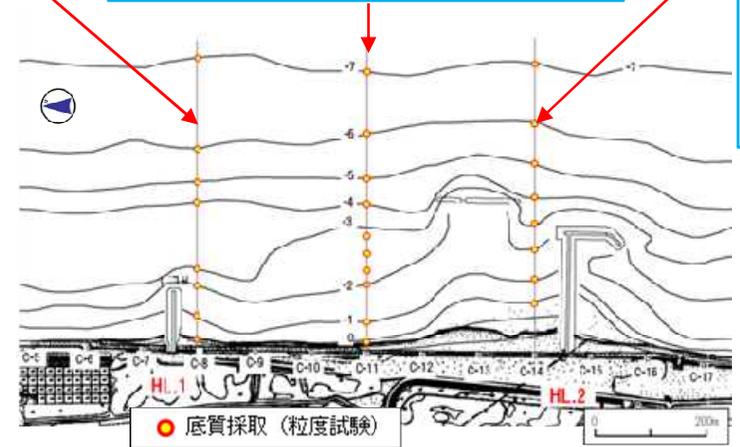
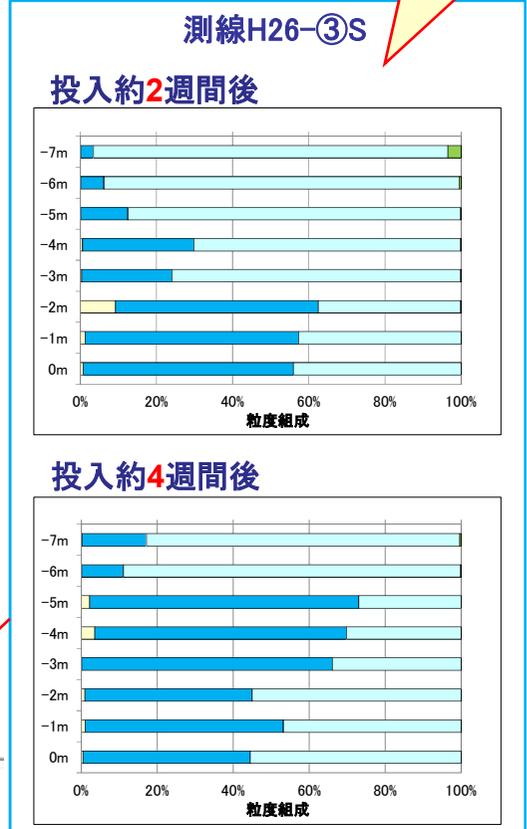


粗粒材(礫分)が確認された場所

礫分は確認されなかった。



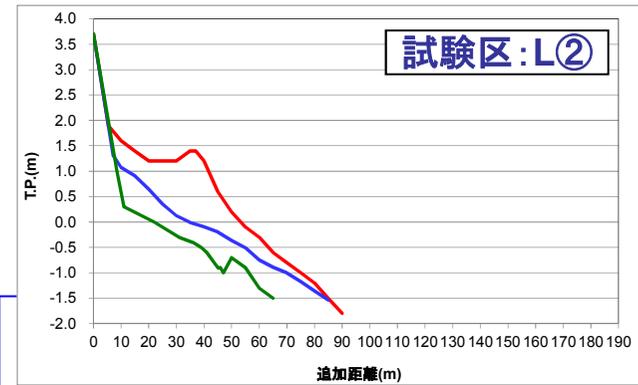
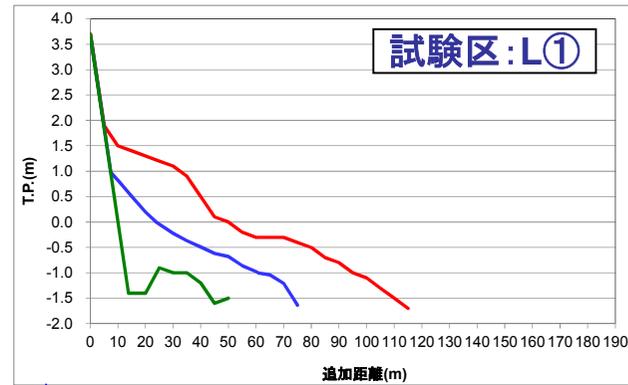
礫分は確認されなかった。



- 礫 2.000-19.000mm
- 粗砂 0.850-2.000mm
- 中砂 0.250-0.850mm
- 細砂 0.075-0.250mm
- シルト粘土 0.075mm未満

2. 汀線部の地形の変化

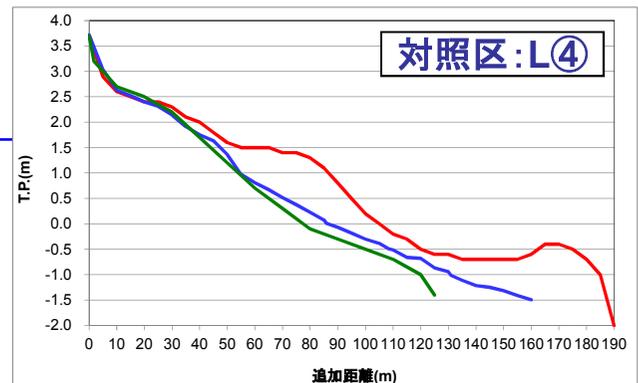
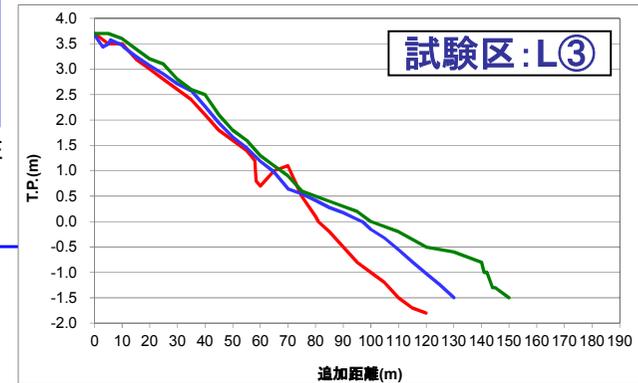
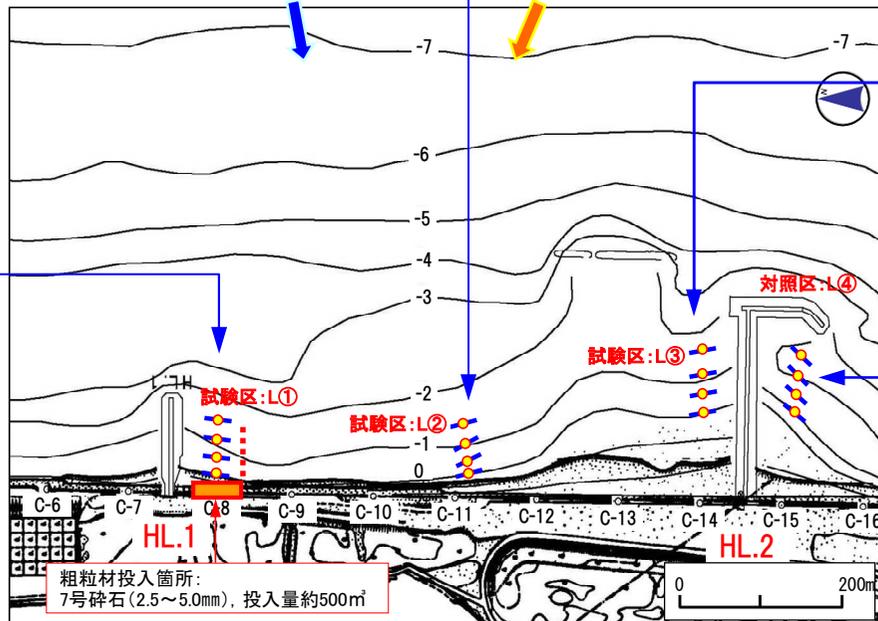
秋季(H25年10月)は、台風後であり、試験区L①、L②では、ほとんど前浜がみられない状態であったが、春季～夏季は平均波向が南向きに転じ、前浜の堆積が進んでいる状況が認められる。



粗粒材養浜
予備試験施工

- 2013年10月31日
- 2014年4月16日(粗粒材投入後約5週間)
- 2014年7月25日

冬季(12~2月)の平均波向:N79° E 夏季(6~8月)の平均波向:N113° E



※夏季及び冬季の平均波向の推定値は、下記文献による。
野志保仁・宇多高明・清水達也・熊田貴之・富澤和雄・川瀬栄・下木豪(2012):一宮海岸が良好なサーフポットとして成立している理由,土木学会論文集B3(海洋開発), Vol.68, No.2, I-1209-I-1214.

3. 生物調査

3.1 生物調査の実施状況

粗粒材養浜試験施工箇所周辺域において、チョウセンハマグリを初めとする汀線部の海生生物の生息状況の把握を目的とする。

1. 調査実施日

・平成26年4月16日

～4月17日

(粗粒材投入約5週間後)

・平成26年7月25日

～7月26日

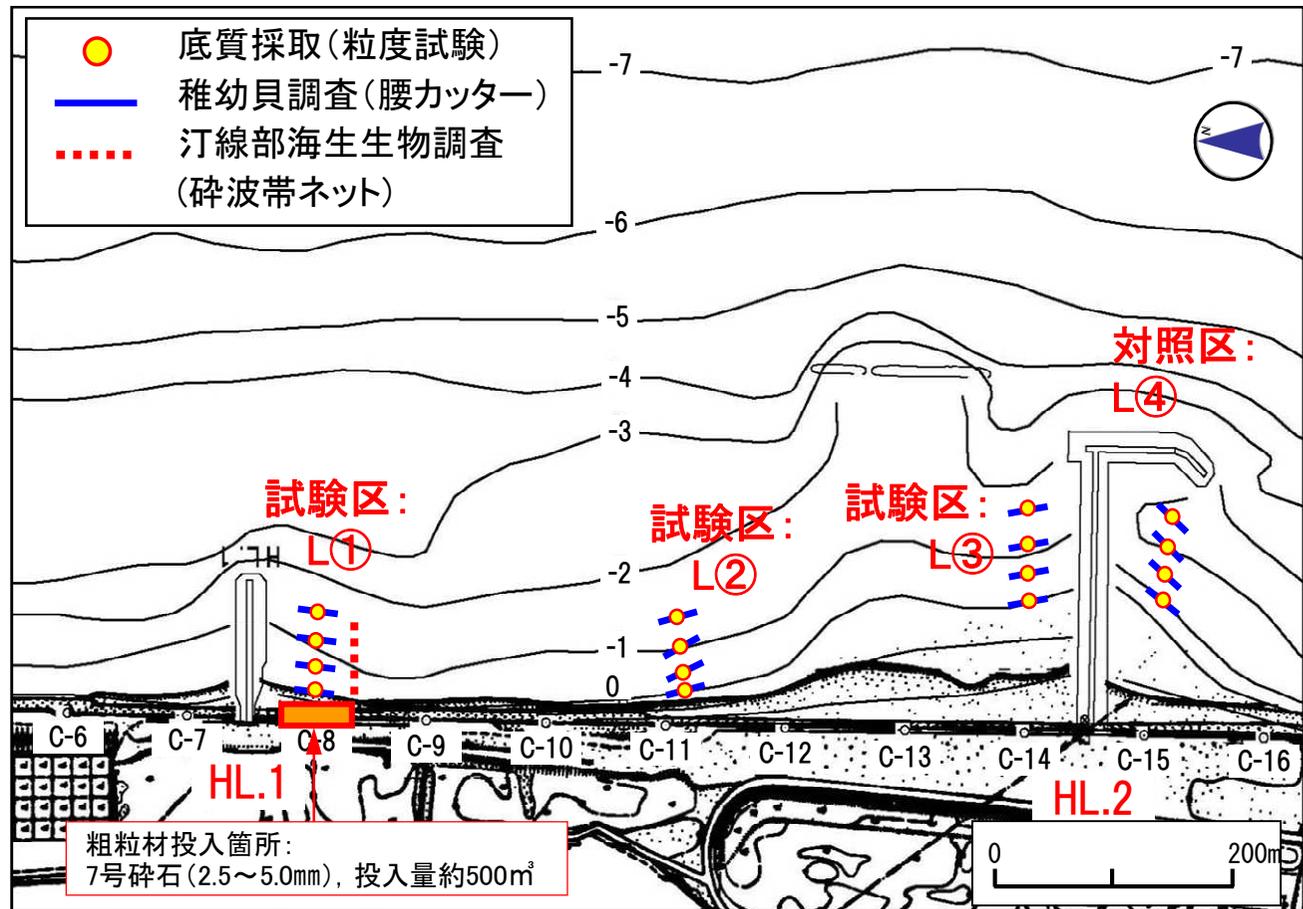
(粗粒材投入約4ヶ月半後)

2. 調査場所

HL1号堤～2号堤周辺域

3. 調査内容

- ・ 汀線部の地形計測
- ・ 底質 (粒度試験)
- ・ 稚幼貝調査 (ジョレン)
- ・ 汀線部海生生物 (碎波帯ネット)



汀線部の生物調査の実施位置



ジョレン(腰カッター)による採取



碎波帯ネットによる海生生物の採取

3. 生物調査 3.2 汀線部の底生動物の生息状況

試験区L①は、秋季(H25年10月)では、護岸前面の洗掘により前浜が存在せず、フジノハナガイのみの確認であったが、護岸前面に砂が堆積し前浜が形成された春季(H26年4月)には、多くの底生動物がみられるようになり、夏季(H26年7月)では、最も多くの底生動物が確認された。



ダンベイキサゴ(殻径13mm)

ダンベイキサゴは、対照区L④で最も多くみられた。



フジノハナガイ(殻長20mm)

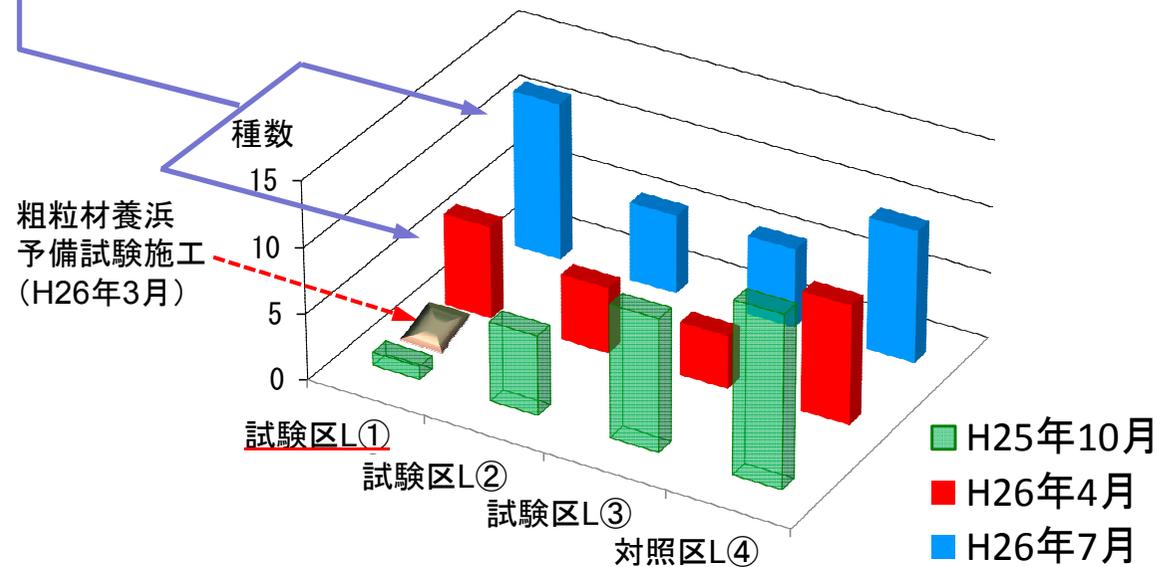
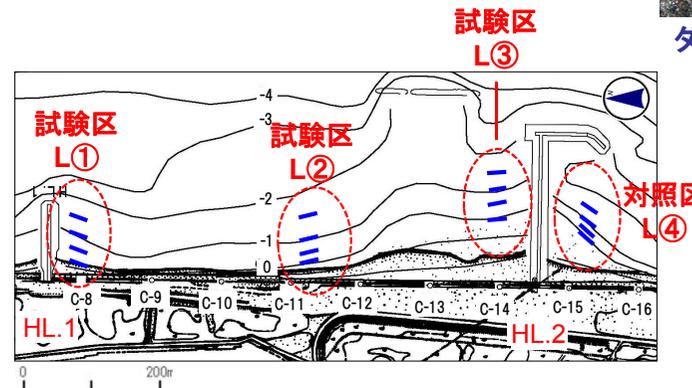
粗粒材投入後の汀線部(試験区L①)で多くみられた底生動物



チョウセンハマグリ(殻長36mm)



コタマガイ(殻長60mm)



汀線部の底生動物の種数の変化